＜先週の説教から＞

『詩編㉘―わたしの主よ、沈黙しないでください』　武田　真治　牧師

詩 編 ２８：１～９　マタイ福音書 ９：３５～３８

毎月、月の最後の主日礼拝では『詩編』を一つづつ読み進めています。この『詩編』に収められている歌や詩は、もともと一人の信仰者の祈りや讃美、信仰の告白ですが、それが多くの人々の共感を呼んで集められ残されて来たものです。この28編ではどこが共感を持たれて来たのでしょうか？

それは何より冒頭の“叫び”と言い得ます。即ち「主よ、あなたを呼び求めます。わたしの岩よ、わたしに対して沈黙しないでください。」です。これは神様が自分に対して“聞く耳をもたない方（＝原文でハーラーシュ）”のようになっておられると訴えている言葉です。私共も、神様に向かって祈り、答えを求めますが、答えてもらえないと思ってしまうことやすぐには願った解決が与えられないことがあると『こんなに祈っているのに、どうして黙っておられるのか？』と叫ばないでしょうか。しかもこの祈り手の状況は「あなたが黙しておられるなら、わたしは墓（ボール＝墓穴）に下る者とされてしまいます」という厳しい状況でした。本当に助けが今すぐ必要でした。普通なら四方八方に相談し、手を尽くして何らかの脱出手段を探すことへと向かいそうです。

勿論、この祈り人も一方では必死に現実的な手段を探していたのでしょう。しかし、そのような状況でも次の節で「嘆き祈るわたしの声を聞いてください。至聖所（＝神様が臨在される場所）に向かって手を上げ、あなたに救いを求めて叫びます」と何より礼拝へと向かい、主に助け求めるのです。むしろそれしか現状を解決する道がないと！この思いもまた私たちも共感するところではないでしょうか。

そしてその結果、神様にその声が届くのです。この詩編の後半は祈りが届いたことへの感謝へと変わります。それが「主をたたえよ。嘆き祈るわたしの声を聞いてくださいました。わたしの心は主に拠り頼みます。主の助けを得てわたしの心は喜び踊ります。歌をささげて感謝いたします。」です。このような祈りが献げられることへと私たちも導かれたいと切に願います。その讃美の声も多くの人達の共感を呼んできたものです。実はこの「私は踊る」という言葉をギリシア語訳聖書(LXX)では「私の肉は再生した」と訳しており、昔からキリスト教会ではここをイエス様の“復活”を指し示す言葉として読まれて来ました。そこからこの詩編全体をイエス様の祈りの言葉として受け止められて来た歴史があります（＝前半を十字架に向かう祈りとして、後半を復活後の祈りとして）。それは8節に「主は油注がれた者（メシアーハ）の力」という言葉があるからでもあります。

そして、最後の9節の「お救いください、あなたの民を」がまさにイエス様への私たちの祈り、願いであると！これこそ主の御降誕を待つ、アドベントの“祈り”ではないでしょうか。私たちに本当の救いを与えてくださいと。それは、私たちの「肉」も「再生する（＝復活）」ことを望む、究極の“祈り”へと繋がっているのです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．12月７日（水）20：00
Ⅱ．12月８日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　ダビデ会を覚えて
担 当 者：　(水) 岩井　(木) 坂田
祈りに覚える人：　東さん　　阿部さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男　26　　女　54　　計　80
祈祷会　Ⅰ．男5　女2　計7　　Ⅱ．男2　女8　計10
日曜学校　　幼稚科　6　　小中科　13　　計19

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週礼拝】　１２月　１１日（日）

聖　書：　創世記　６：１８～２２
ヘブライ人への手紙　１１：４～８

説　教：「ヘブライ㉞ ― 信仰がなかったなら」
武田 真治 牧師

讃美歌：２４２(１～３)、２３０(１)、３２(１)、241(聖歌隊)、
４３３(１～３)、２２７(１と２)、８３(１)

【次週当番表】

司式:茨木長老　奏楽:村上　　礼拝:齋藤長老
献金：吉岡　吉川　　受付：鈴木　橋本
会堂準備：飯島　岡本　金刺　中村
看板：岩佐　　週報：金刺　　お花：茨木

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・壮年会・婦人会・ダビデ会

６３－４９

週　報

2022年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　１２月　４日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/